

がちり長生会

発行 五所塚長生会
編集 砂田 絃子

春の桜から始まり・さつき・アジサイと花が咲き、私どもの目を楽しませてくれる季節を世では百花繚乱と称しています。この季節がやがて過ぎ暑い夏がきます。考えただけでも汗が出てきます。しかし自然の営みは当たり前です。春里山で見つけた面白い植物の名前の紹介です。とんぼ浴びて

けしょう (夕化粧)

けしょうはいつしますかの問いに大部分の人は朝と答えます。夕方するなんて艶っぽいとか・変だの色々な考えをお持ちの方も。この花は、3時ごろ咲き翌日の午前中まで咲きます。ピンクのかわいい花が、翌日には白い花に様変わり。道沿いに咲く雑草です。おもしろい花の仲間。昔の人が色っぽく名づけた！



はないかだ (花筏)

はないかだ木の花は、春には葉っぱの真ん中辺りに花を咲かせます。終わると玉となりその姿が人間の姿に似ている事から、葉っぱを船に玉が人間の姿になぞらえたそうです。まるで筏に乗った船頭さんの姿に見えたから。



エゴノキ

春山では、花を沢山つけている高木はそう多くありません。高木であるエゴノ木は、沢山の花を下に向けて咲かせる唯一の木です。昆虫たちは、蜜をめがけて飛んでくるので、周りを飛び交う昆虫を見ることが出来ます。咲き終り地面に散った姿は、まるで雪のようです。エゴイの語句は実を口にいとるとえぐい事からきました。口に入れることはお勧めできません。昔は洗剤として、又魚を捕るときに、材は将棋のこまにと色々な使い方がありました。エゴノ木の昆虫と魚と人間とのかかわりにいやはや何とも不思議。

